社協だより
福祉ひたちなか
100号発行記念紙

2012年
5月25日発行

発行者
社会福祉法人
ひたちなか市社会福祉協議会
ひたちなか市西大島 3-16-1
ひたちなか市総合福祉センター内
☎㈹029(274)3241

100号発行を迎えて 社協会長へインタビュー!!

平成7年5月に『福祉ひたちなか』1号を発行してから17年。今回の号で100号となりました。広報委員が社協会長を訪問し、これからの社協の取り組みについて、お話を伺いました。

広報委員
社協だより『福祉ひたちなか』の100号まで、平成7年から17年かかりました。100号を迎えるということで、本間会長にお話を伺う企画をいたしました。よろしくお願いします。

本間会長
広報委員の皆様、『福祉ひたちなか』の100号までの発行ご苦労様でした。17年間という長きにわたる積み重ねの大きな財産だと考えます。簡単に総括できるような事ではありませんが100号発行を機会に社協の役割とは何かを確認できればと思います。

広報委員
会長の考える『社協の役割』や『これからの社協について』をお聞かせ下さい。

本間会長
いろいろな制度ができて、日本全体も変わってきています。子どもが相対的に少なく今まさに高齢社会の真只中です。そういう中で介護保険制度ができたっていうのも高齢社会への対応ですよね。
また障がいを持っておられる方がなかなか地域に出られない、障がいを持つ子どもたちの療育、学校での教育、卒業後どのように人生を送るかという問題もはっきりしてきました。総合支援法の制度もその流れでしょう。社協は直接現場を持っているので、高齢者にしても障がいのある方に対しても、この地域に必要なサービスや対応を率先して実践をするっていう役割を持ってきたと思います。
その変化に対応していくために社協らしい対応の仕方があるので、日常的に見直しをしながら推進していくことが社協に求められてると思います。そういう変化にも社協は取り組んでいかなくてはならないのではないかなと思います。
住民が、社協に対してどういう期待をし、何を望み、何を求めているのかを、常に耳をそば立てて実践していく事が大切だし、一方的にならないことが大事だと思います。私は普段から社協についてはそんなふうに考え、期待をもっています。

広報委員
その他に、これからの社協として力を入れていることは、どんなことでしょうか？

本間会長
ひたちなか市は、毎年1400人余の新生児が生まれる元気のあるまちです。しかし、高齢化も進んでおり、子育てや要援護世帯の支援として『ファミリー・サポート・センター事業』を、より充実させたいと思っています。利用会員に協力会員を派遣して、子育て支援や日常生活支援などのお手伝いをするという事業ですが、子育てや高齢者の安全・安心を確保するうえで、今後益々必要性が増えていくと考えております。
また、昨年『東日本大震災』が起こりました。社協では震災後、災害ボランティアセンターの立ち上げや被災者支援、避難所運営を行いました。実際に災害の時に他人を助けたり協力したりすることができる人がボランティアとして登録してもらって、現場でボランティアの行先や働いてもらう調整をする。災害時に協力してくれる人や他の人のために何か活動できる人を、働きやすい仕組みづくりを作ったというのも、社協ならではの役割として一つ果たしていると思います。
もう一つは、この総合福祉センターやしあわせプラザ、老人福祉センター等の運営です。施設にはそれぞれ目的があり、目的にそったサービスで運営しています。これを管理し、より良い公共施設として質の高いサービスを提供していくという面もあります。

広報委員
本市の高齢福祉事業特徴や老人福祉センターの事業では、どんなことがありますか？

本間会長
老人相談事業の取り組みとして、これまでは一人暮らし高齢者世帯への訪問相談を行っていました。昨年度から新たに、75歳以上の二人暮らし高齢者世帯の訪問相談も開始したところです。高齢者世帯でも病弱や老老介護など、心配や不安を抱えている世帯もあるので、継続して取り組んでいきます。さらに、社協のあらゆる業務を通して得た情報をまとめ共有化し、孤立・孤独による悲しい出来事が起こらないよう努めたいと考えております。
また、発達に不安や心配のあるお子さんのための『療育訓練事業』では、今年度受け入れ態勢を強化しました。保護者の皆様の相談に対応しながら、保育・訓練に取り組んでいきます。また、心身障害者福祉センターなどの利用者においても、住み慣れた地域で自立して生活できるよう支援してまいります。
高齢者の皆様への福祉活動では、お年寄り相談センターの機能を充実させて、介護保険の利用にならないよう介護予防に取り組んでいきます。そして、いきいきふれあいサロンや老人福祉センターを利用していただき、仲間と交流する元気で健康なお年寄りになっていただきたいのです。
日常生活での心配事などに総合的な相談も行っています。生活上の心配事などの相談を受けて、解決方法や情報提供などのアドバイスする、ワンストップ総合相談サービスに取り組んでいます。
市内6箇所の老人福祉センターで最近行ったのは、カラオケ休止日や教養講座の開催などを取り入れたことです。老人福祉センターの楽しみ方では、多様なお年寄りがいるわけですね。それに対して、どんな使い方をするか、ひと工夫するということを望んでいた利用者もいたと思いますので、大切な事だったのではないかなと思います。

広報委員
老人福祉センターに行って、お風呂に入ったり、友人とおしゃべりしたり、教養講座に参加し、生きがいを見つけ、そのうえ心配事も解決できたら、心身共に健康になれますね。
老人相談員の訪問も、ひとり暮らし世帯や高齢者ふたり暮し世帯にとって心強いですね。
最後に、社協では、『社協の役割と地域福祉の充実について』地域福祉活動計画を策定していると伺いましたが、どのようなものかお聞かせ下さい。

本間会長
地域福祉の充実は、社協や行政だけでは十分でないことは明らかであり、そこに住む方や、社協支部、民生委員児童委員や団体等の連携と協力が必要であることを今回の震災で経験し、さらに強く感じたところであります。
社協は、平成21年度に社協運営の指針となる、5ヵ年の地域福祉活動計画を策定し、事業を実施しています。今年度は、住民懇談会を実施しニーズを伺い、住民等と一緒になって計画改訂に取り組み、更に地域福祉を推進してまいりたいと考えております。ご協力をお願いします。
今回は、100号記念の企画でしたが、本当はお話ししたい事やご紹介したい内容が沢山あります。これらについては広報紙の紙面を有効に活用し、心配事の解決や健康管理などの手引となるよう内容をより充実し、社協事業に住民の皆様の要望を取り入れるなどして取り組み、ご支援ご協力を得られるよう努めてまいります。
社協では、地域の中で子供からお年寄りまで、すべての住民が安全・安心に暮らせることができ、地域に信頼される社協として、街づくりのお役に立ちたいと考えております。
社協事業についてのご意見やご提言は、いつでも耳を傾ける姿勢でおりますので、事務局までお気軽にお問い合わせください。

地域福祉活動計画

広報委員
本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

紙面の関係上、掲載しませんでしたが、ボランティア活動・福祉教育の推進についても、更に力を入れて取り組んで行きたい。とのお話もありました。

社協だより「福祉ひたちなか」１号から１００号のあゆみ

「福祉ひたちなか」の主な記事	号	年	月	ひたちなか市の主な福祉の出来事
・「福祉ひたちなか」１号発行（白黒刷り）	1	1995	7	・地域型在宅介護支援センター恵苑開設
・ひたちなか市社会福祉協議会発足	1	1995	7	・那珂湊平磯地区で地域ケアシステム事業の実施開始
・ホームヘルパー派遣事業 開始	1	平成7	10	・ひたちなか市那珂湊総合福祉センター開設
移動浴槽車派遣事業 開始	1			・いきいき創生館
・ひたちなか市社会福祉協議会 設立記念式典開催	2			・心身障害者福祉センター
・ひたちなか市ボランティア連絡協議会 設立	2			併設：ふれあい交流館＆老人福祉センターみなと荘
・児童生徒のボランティア活動普及事業協力校 スタート	2			・高場デイサービスセンター食事サービス開始
・那珂湊総合福祉センター開館	4			
・しあわせプラザ 第1回ふれあい広場 開催	7	1996	3	・ひたちなか市老人保健福祉計画策定
・大好きいばらき 福祉むら 開催（於 笠松運動公園）	9	平成8	4	・子育サポーター設置事業開始
・第1回 ふれあいフェスティバル 開催	12	1997	9	・津田老人いこいの家（入浴施設）開所
・生活福祉資金 貸付のごあんない	15	平成9	12	・介護保険法公布
・ゆうあいスポーツの集い おひさまといっしょに	17	1998	10	・金上ふれあいセンター建設工事着工
・ゆうあいピック茨城大会（於 笠松運動公園 他）	20	平成10	10	・ゆうあいピック茨城大会（バスケットボール）
ひたちなか市より１０００人のボランティアが協力				
・高齢者事業を含めて新たな社協の仕事	22	1999	3	・ひたちなか市障害者プラン策定
社会福祉協議会と高齢者福祉事業団を統合		平成11	4	・ひたちなか市高齢者福祉事業団解散し
・ハートケアセンターひたちなか 開設	23			ひたちなか市社会福祉協議会に統合
（地域生活センター併設）			10	・地域型在宅介護支援センターサンフラワーひたちなか開設
・国際高齢者年 第5回 市三世代ふれあい運動会 開催	23			
・ひとりぐらし高齢者小地域ネットワークづくり	26	2000	3	・金上ふれあいセンター開館
・安心とふれあいの ひたちなか市緊急通報システム	26	平成12		・金上交流センター
・金上ふれあいセンター開館	27			・金上老人デイサービスセンター
・福祉バス2台に増設	28			・老人福祉センター金上荘
・ひたちなか市社会福祉協議会が提供する介護保険サービス	28			・地域型在宅介護支援センター金上
・市社協組織改正 3課 2所 7係 職員129名でスタート	28			
・ボランティア協力校の意味と取り組み	29		3	・ひたちなか市エンゼルプラン策定
・支部福祉活動の取り組み 七十四全支部で実践	30			・ひたちなか市しあわせプラン21策定
・視覚障害者福祉協会が設立30周年記念式典	31			（高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画）
・市育成会 10周年記念事業クリーン大作戦「阿字ヶ浦海岸清掃」	31		4	・介護保険施行
・心身障害者福祉団体の活動状況の紹介（七団体）	31			
・平成13年度 社協事業と組織について	34	2001	4	・基幹型在宅介護支援センター設置
・市社協 支部長連絡協議会開催	35	平成13	10	・地域型在宅介護支援センターいくり苑開設
・「福祉ひたちなか」38号発行（カラー刷り）	38	2002	4	・精神保健福祉法改正により精神障害者支援事業開始
・ボランティア国際年記念 V活動漫画コンテスト	38	平成14		
・ご存知でしたか？ 身近な福祉・介護サービス	40			
・高齢者クラブの活動紹介	41			
・地域福祉権利擁護事業	42			
・みんなの安心介護 介護保険Q＆A	45	2003	3	・ひたちなか市しあわせプラン21（第2期）策定
・緊急通報システムの利用者基準変更	46	平成15	4	・支援費制度施行
ふれあい・いきいきサロンってなあに？	47			
・ご存じですか？ 地域福祉権利擁護事業のこと	51	2004	11	・地域型在宅介護支援センターはまぎくの里開設
・はんどちゃんネットワーク運動の紹介	52	平成16		
・ひたちなか市社協のホームページができます！	53			

社協だより「福祉ひたちなか」白黒刷り

ひたちなか市社会福祉協議会　会長　清水　昇

今年の漢字										
震（第1回）1995年から	食	倒	毒	末	金	戦	帰	虎	災

1995.1.17 阪神淡路大震災

1998.2 郵便番号7桁制実施

2002.4 公立学校の完全週休二日制実施

No. 1号

総合福祉センター

No. 38号

カラー刷り始まる

54	・中学生3級ヘルパー誕生！ 青少年の訪問介護員 養成研修（3級課程）に18名		
55	・ワイワイふれあい館オープン		
57	・ひたちなか市の子育てサロン マップ	2005 平成17	3
58	・療育訓練センターが増設されました		
61	・老人福祉センター利用案内		
65	・高場・金上デイにリハビリ訓練機器導入	2006 平成18	3
66	・ＡＥＤ（自動体外式除細動器）が設置されました		
66	・ご存知ですか？ 緊急通報システム		
67	・平成18年12月1日スタート！ファミリー・サポートがはじまります		10
69	・シリーズ：社協のしごと1 社協支部とは…？	2007 平成19	3
70	・シリーズ：社協のしごと2 社協の新しいしごと		
71	・シリーズ：社協のしごと3 介護保険事業		
72	・ひたちなか市 相談支援事業所		4
72	・ひたちなか市 南部地域包括支援センター		
72			9
73	・シリーズ：社協のしごと4 生きがい対策事業		
72	・シリーズ：社協のしごと5 高齢者を見守る事業		11
74	・シリーズ：社協のしごと6 ボランティア連絡協議会	2008 平成20	4
74	・ねんりんピック茨城2007 笹野長寿会がゲートボールで日本一		
75	・地域包括センター（高齢者の心配ごと、困りごとの相談窓口）		
75	・シリーズ：社協のしごと7 ボランティア活動センター		
76	・シリーズ：社協のしごと8 心身障がい者支援施設の紹介		
77	・シリーズ：社協のしごと9 心身障がい児支援施設の紹介		
78	・シリーズ：社協のしごと10 在宅の暮らしを支援する事業		
79	・シリーズ：社協のしごと11 高齢者クラブ連合会と単位クラブ		
80	・シリーズ：社協のしごと12 福祉センターと社協の事務局	2009 平成21	3
80	・那珂湊手話を学ぶ会が緑綬褒章を受章		
81	・地域ケアシステム推進事業		3
82	・社協支部（自治会）の役割		10
83	・かなりや教室ボランティアが緑綬褒章を受章		
83	・みんなで支えあい、助け合うために…「地域福祉計画」ができました		
84	・野蒜（のびる）あゆみ会 解散 ～37年間の思いを込めて～		
85	・小地域ネットワークの活動事例		
85	・赤い羽根共同募金やアビリンピックいばらきでボランティアが大活躍		
87	・ふれあい交流館 利用案内	2010 平成22	3
88	・「ひとり暮らし高齢者小地域ネットワーク」と 「緊急通報システム」の対象者が拡がりました！		3
89	・市身体障害者福祉センター 機能回復訓練室のご利用について		4
91	・ファミリー・サポート・センター 協力会員って、こんなことをしています！		
94	・東日本大震災復興支援 ひたちなか市災害ボランティアセンター立ち上げ	2011 平成23	3
95	・募金ができる自動販売機を4施設に設置		
95	・ワンストップ総合相談事業		
95	・高齢者相談事業（ひとり暮らし高齢者・高齢者ふたり世帯）		
96	・姉妹都市 石巻市へ 復興応援の市民ボランティアバス派遣		
98	・手話サークル「竹の子」が緑綬褒章を受章	2012 平成24	3
98	・学校における福祉体験学習のサポータ誕生		3
99	・「福祉ひたちなか」および社協ホームページに広告の掲載を募集		4
100	・老人相談事業（ひとり暮らし高齢者、高齢者ふたり世帯への訪問相談について		4

社協だより 「福祉ひたちなか」 カラー刷り

ひたちなか市社会福祉協議会　会長　本間　源基

	絆	暑	新	変	偽	命	愛

2011.7
サッカー女子W杯
なでしこジャパン世界一

2009.5
裁判員制度スタート

2005.4
個人情報保護法施行

2011.3.11
東日本大震災

No. 96号

金上ふれあいセンター

那珂湊総合福祉センター

『団体と社協とのかかわり ～100号によせて～』

各種団体からコメントをいただきました

ひたちなか市連合民生委員児童委員協議会
会長　**神保　忠正**　様

社協広報紙「福祉ひたちなか」が１００号を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。広報紙の発行にあたって来られたスタッフの方々のご努力に敬意を表します。

また、日頃より、連合民児協の活動に対しまして、多大なるご理解、ご指導を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年では、福祉事業の範囲が拡大され、児童、高齢者、障がい者、生活困難者家庭の見守り、赤い羽根共同募金、結婚相談、災害時の支援活動等さまざまな福祉活動を社協と共に取り組み推進しております。これらの活動の情報を「福祉ひたちなか」によって広く伝えることがますます重要になると思います。

当民児協は、要援護者支援活動を強化し、要援助者に対して適切な対応連携を図り、安心・安全に暮らせる福祉のまちづくりに努めてまいります。

広報活動にご尽力されておられる方々の、ますますの発展ご活躍を期待いたしております。

ひたちなか市高齢者クラブ連合会
会長　**橋野　文二**　様

“福祉”と向き合う小さな自分

社協だより「福祉ひたちなか」発刊１００号おめでとうございます。

私が普段何気なく使っていた「福祉」という言葉について考え始めたのが、現役時代が終わった時点でした。それまでは会社人間。定年がきて社会人間に実感したとき、自分の時間が自由に持てたのが一因だったと思います。

現役が終わり高齢者クラブのお手伝いをさせていただく事になった当時、目にした「老人福祉法」（昭和３８年施行）の「福祉」という広義の言葉について理解を深めたかったと思ったのがきっかけでした。

学べば学ぶほど分からなくなるのが「福祉」何度も読み返して少しですが理解できるようになった「福祉」。そんな中で大きな力を与えてくれたのが、社協だより「福祉ひたちなか」でした。

素人の私でも、普段着の文言で読みやすく、親しみを感じながら楽しく学べた広報紙。ほんのチョットですが、私の社会貢献のお手伝いに結びついてきたように感じています。

満ち足りた生活環境の実現のためのサービス、そのための制度、設備の整備。誰もが安心して暮らせる社会づくりに、社協だより「福祉ひたちなか」ともども歩んで往きたいと思います。

ひたちなか市心身障害者連絡協議会
会長　**深谷　悦男**　様

「福祉ひたちなか」１００号おめでとうございます。継続は力なりと言いますが、この間の関係者のご努力に敬意と感謝を申し上げます。

心身連（略称）は、視覚障害者協会、聴覚障害者協会、地域家族会、身体障害者福祉協会と障害児者育成会で構成されている団体です。事務局である社会福祉協議会の支援を受け、障がい者の福祉向上と障がいのある人もない人も共に暮らせる社会を目指して活動しています。

障がい者や高齢者が地域で共生して行くのには、地域の方々の相互理解が必要です。個々の啓発活動では限界もあり「福祉ひたちなか」が果たす役割は重要なものがあります。障がい者と市民の交流する「ふれあいフェスティバル」、心身連の「フレンドリーウォークラリー」「ボウリング大会」などの広報を通じて多くの市民が認識を深めてくれるものと感謝しております。

ひたちなか市自治会連合会
会長　**三ツ石　喜郎**　様

このたび「福祉ひたちなか」が１００号を迎えられるとのこと、心よりお祝い申し上げます。

現在ひたちなか市には８２の自治会がありますが、各自治会は社協支部として位置づけられており、地域の見守りや安心・安全事業としての小地域ネットワーク活動、福祉講座の開催、ふれあい事業など様々な地域福祉活動を行っております。

今日、少子高齢化や核家族化が進み、地域との関わりが希薄化しているなか、福祉のあり方も多様化してきております。地域福祉に対する期待感、重要性もますます高まってきており、地域の代表である自治会が福祉分野で果たす役割も大きくなっているものと自負しております。そのような中、自治会が地域福祉の充実を図っていく上で、社協との連携がより強化されることが必要になると感じております。

自治会連合会としても、社協との連携を密にしながら、地域福祉の充実を促進し、住民が安心して住める地域社会になることを目指して活動してまいります。

今後も福祉活動の広報としてのますますのご発展を祈念いたします。

ひたちなか市ボランティア連絡協議会
会長　**斉藤　利子**　様

「福祉ひたちなか」１００号おめでとうございます。毎号楽しく拝読しています。

私達のひたちなか市ボランティア連絡協議会は、社協に所属する３１サークル、約５８０名の団体です。心身障がい者福祉関係、高齢者福祉関係、地域福祉関係にそれぞれの分野でボランティア活動をしています。また、社協主催のふれあいフェスティバル、赤い羽根共同募金、災害ボランティアセンターへの協力など、参加しています。活動している仲間の中には「福祉ひたちなか」の受講生募集案内や紙面で紹介された記事に興味を持ち活動を始めた人などさまざまです。また、ボランティア連絡協議会として実施している活動も「福祉ひたちなか」には、幾度も取り上げていただいており、会の皆の励みとなっております。今後も更なる活動の充実を目指して行きます。

カラフルで読み易く、身近な情報がたくさん載っている「福祉ひたちなか」ますます愛され、喜ばれる内容に期待します。

歴代広報委員長から寄稿していただきました！

前広報委員長　**槁本　重男**　様

広報紙「福祉ひたちなか」１００号によせて

１００号達成おめでとうございます。編集に携わってきた方々には、17年間にわたり大変にご苦労様でした。とともに継続しえた達成感を味わっておられること思います。

広報委員会の想い出は、委員さんにもいろいろな方がおりました。編集会議で、良い意見を発言するけれど決して代案を出さない人、無言で代案を出す人、そんなことなどどうでもいいのになと、思いながら意見を聞いてみると、意外に大事なことを発言する人など、編集会議は何時も議論白熱、思っていること言いたいことを思う存分に発言できる会議でしたが、それでいて和気あいあいの雰囲気でした。各委員の「良い紙面を作ろう」とする熱意と情熱が一致してそのムードをかもしだしているのでしょう。

広報委員の皆さん、１００号は一通過点です。福祉の事業は年間の繰り返しで、掲載記事もマンネリ化しがちですが、常に、「紙面の刷新」・「適時適切な情報の発信」を心がけてご健闘下さい。外野からこれからもエールをおくります。

編集後記

私たち広報委員が各号ごとに、市民の皆様に「社協」を知ってもらい、「誰もが住みやすい福祉のまち ひたちなか市」を築くための福祉情報の発信を目指し会議を重ねてきた広報紙が、ようやく１００号を迎えることができました。

平成７年の第１号発行時は白黒でしたが、現在はカラーで４４０００部。各ご家庭に配布させていただいています。

社協の広報委員を担当された諸先輩方の功績を引き継ぎ、今後１５０号、２００号と歴史を刻んでいけるよう、情報収集のアンテナを高くし、社協職員とスクラムを組んで、よりよい紙面づくりに励んで行きたいと思います。

市民の方が「福祉」に興味を持ち、社協と「福祉ひたちなか」を身近に感じて、より愛していただきますよう、これからも広報委員一同がんばってまいります。皆様のご意見・ご感想をお寄せください。お待ちしています。

広報委員長　岩崎　洋子

普段の委員会の様子です